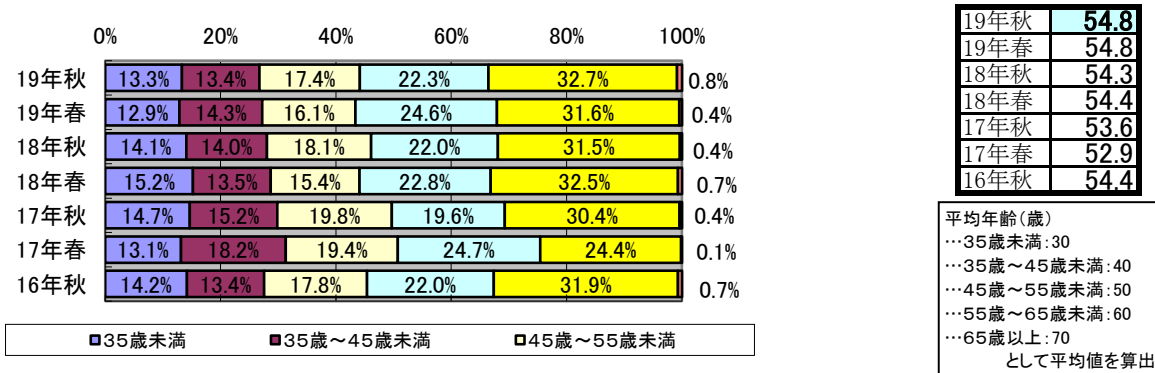


# 2019年秋 消費者のくらし向きに関するアンケート 調査結果 (サマリー)

調査名	2019年秋の「消費者のくらし向きに関するアンケート」調査
調査時期	2019年10月
調査対象	県民生協組合員約16万人の中から2,500人を無作為抽出(福井県の年齢・市町別構成比で)
調査者	公益社団法人 ふくい・くらしの研究所
調査内容	消費者のくらし向き、旅行、貯蓄、ボーナス、お中元・お歳暮、くらし・食・環境・福祉等の意識調査 福井県の消費者の消費動向(消費者マインド)を把握するために半年に1回定期的に行っている調査で、今回で29回目となる
回答状況	配布数2,500枚、有効回答数849枚、回答率34%

## 年齢構成と平均年齢

回答者平均年齢は54.8歳で、前回と同じでした。



## 消費増税により消費者マインドは後退するが、前回の増税時より影響は少ない(図表1～3)

公益社団法人ふくい・くらしの研究所の標記アンケート(2019年10月実施、有効回答数849)によると、今後半年間の「くらし向き」について、D.I.値が前回より約6.2ポイント下がり▲29.3となりました。他の項目についても、「収入」「支出」「貯蓄」全てでマイナス方向の値が増えており、消費増税により消費者マインドが後退したと読み取れます。ただし、値の下がり方は2014年春の消費増税時よりは少なく、影響は前回ほどではないといえそうです。

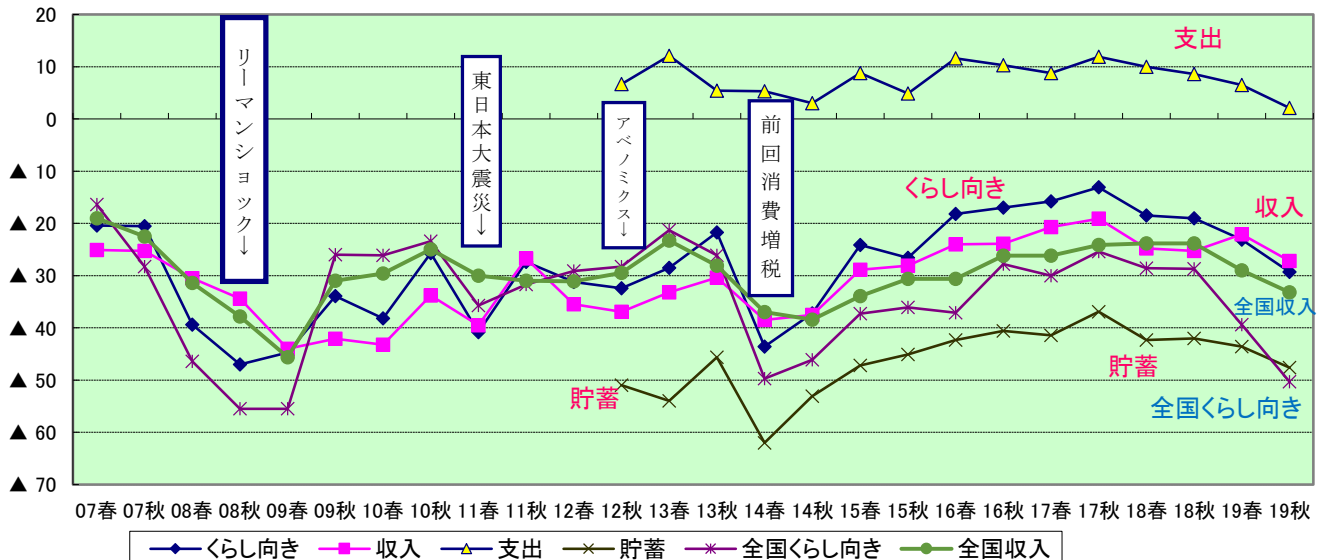
実質(現在)の「くらし向き」については、「収入」が悪くなっていないのにもかかわらずD.I値が6.4ポイント下がっています。

\*\*D.I.値 : diffusion index(景気動向指数)の略語。{(良い+やや良い)-(悪い+やや悪い)}÷(無回答を除き変わらないを含めた合計) の比率を表します。

図表1 今後半年間のくらし向き、収入、支出、貯蓄(比率) ※全国比率は、内閣府公示の19年10月「消費動向調査」より

	くらし向き			収入			支出		貯蓄	
	19年春	19年秋	全国	19年春	19年秋	全国	19年春	19年秋	19年春	19年秋
良くなる(増える)	1.6%	0.6%	0.4%	1.0%	0.7%	0.3%	7.6%	6.1%	1.2%	0.1%
やや良くなる(やや増える)	3.5%	2.7%	3.0%	7.3%	3.5%	4.3%	23.0%	22.7%	6.1%	4.1%
変わらない	65.5%	63.3%	42.9%	60.3%	63.8%	57.5%	43.9%	43.3%	41.0%	43.6%
やや悪くなる(やや減る)	23.8%	26.3%	41.3%	22.6%	22.5%	25.7%	19.3%	19.8%	30.3%	32.0%
悪くなる(減る)	4.0%	6.0%	12.4%	7.5%	8.7%	12.1%	4.9%	6.9%	20.1%	19.6%
無回答	1.7%	1.2%		1.2%	0.7%		1.2%	1.1%	1.3%	0.6%
D. I. 値	▲ 23.1	▲ 29.3	▲ 50.3	▲ 22.1	▲ 27.2	▲ 33.2	6.5	2.1	▲ 43.6	▲ 47.6

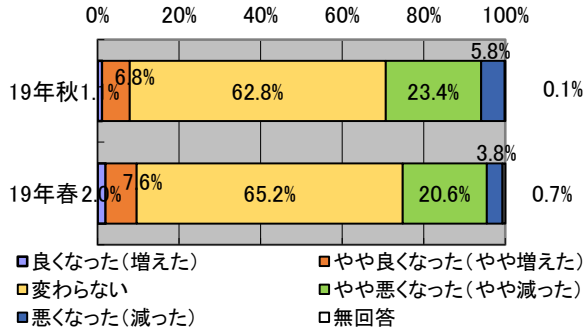
図表2 今後半年間のくらし向き、収入、支出、貯蓄のD. I. 値経年



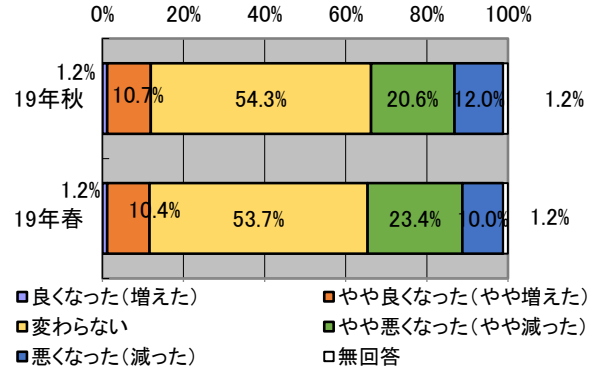
図表3① 実質のくらし向き、収入(%)

	実質のくらし向き		実質の収入	
	19年春	19年秋	19年春	19年秋
良くなった(増えた)	2.0%	1.1%	1.2%	1.2%
やや良くなった(やや増えた)	7.6%	6.8%	10.4%	10.7%
変わらない	65.2%	62.8%	53.7%	54.3%
やや悪くなった(やや減った)	20.6%	23.4%	23.4%	20.6%
悪くなった(減った)	3.8%	5.8%	10.0%	12.0%
無回答	0.7%	0.1%	1.2%	1.2%
D. I. 値	▲ 14.9	▲ 21.3	▲ 22.0	▲ 21.0

図表3② 実質のくらし向き 半年前との比較



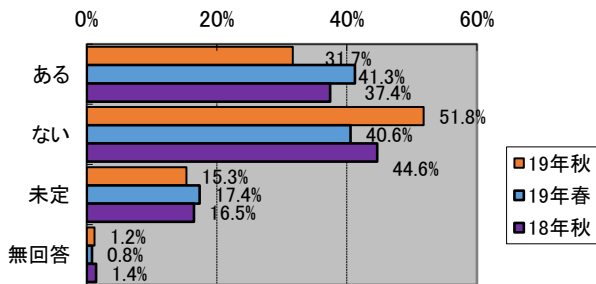
図表3③ 実質の収入 半年前との比較



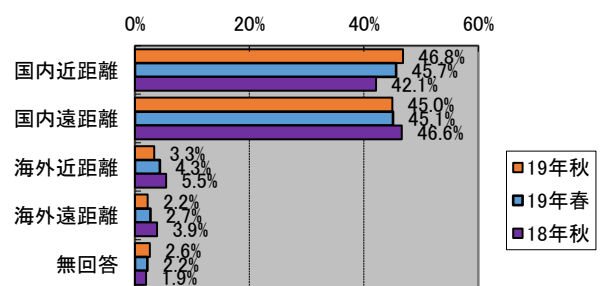
### 節約志向か。旅行へ行く人は減る(図表4~7)

今後半年間に旅行予定が『ある』と答えた方は31.7%となり、旅行に関する調査の開始以降で最も少なくなりました。旅行先、人数、宿泊日数、旅費についても下がっていますが、それほど大きな変化ではなく、旅行そのものをしない決定をする人が増えたことがわかります。消費税増税から来る節約志向が表れていると考えられます。

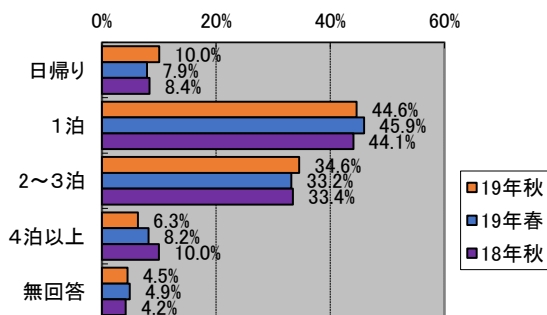
図表4 今後半年間の旅行予定(比率)



図表5 旅行先(比率)



図表6 宿泊数(比率)



図表7 旅全体の費用(平均金額、単位万円)

時期	平均金額
19年秋	10.5
19年春	11.9
18年秋	11.6
18年春	10.2
17年秋	10.7
17年春	11.5
16年秋	11

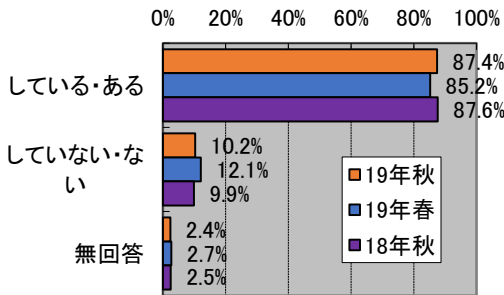
## 平均貯蓄額は過去最高に。ボーナス額は大きな期待せず(図表8～11)

貯蓄が『ある』と回答した人は87.4%で、暮らし向きの見通しや実感に比べると、ほとんど変化がありません。また、全体の貯蓄額の平均は過去最高の1,015万円となりました。消費増税による消費者マインドの後退と生活不安から、貯蓄への意識は高いままであると考えられます。

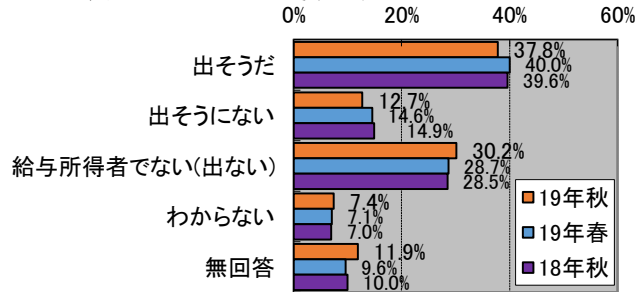
ボーナスについては、『出そうだ』の割合は37.8%で、昨年冬のボーナス(18年秋)と比べて少し減っていますが、『出そうにない』は増えていないため、状況は悪化していないようです。しかし、予想額については『増えそうだ』よりも『減りそうだ』と回答する人の方が多く、あまり期待していない様子が伺えます。

ボーナスの使用予定では、『貯蓄』の割合が平均して5.3、対して『買物』が1.5、『旅行・レジャー』が0.8と、消費より貯蓄を選ぶ堅実な姿勢が表れています。

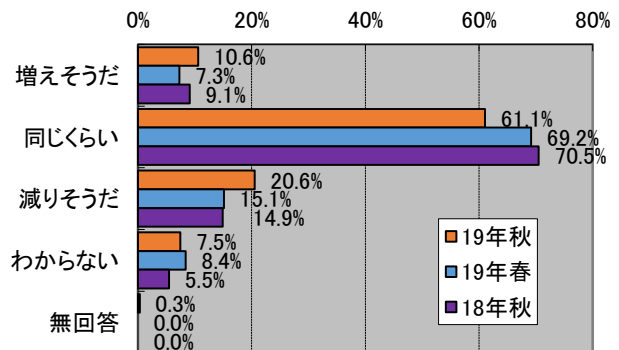
図表8 貯蓄がありますか



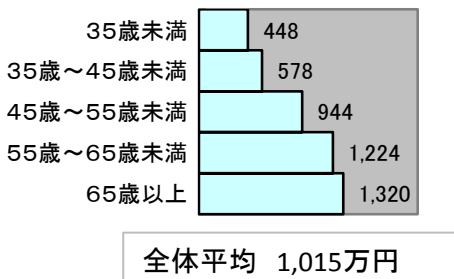
図表10 ボーナスは出そうですか



図表11 ボーナス予想額



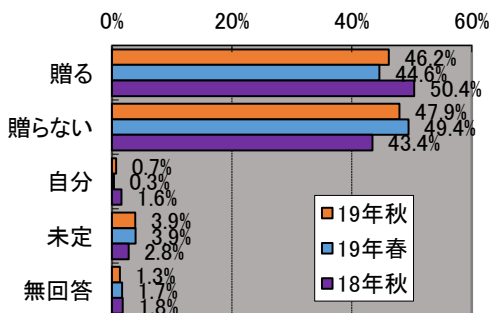
図表9 年代別 貯蓄額(平均額:単位は万円)



## お歳暮を『贈る』人の割合は過去最低に。予定商品トップ3は「海産物」「加工肉」「ビール」(図表12～14)

お歳暮を『贈る』割合は46.2%と、お歳暮としては過去最低となりました。年代で差がありますが、年々贈る人は減っています。予定の商品の順位は、1位「海産物」・2位「加工肉」・3位「ビール」です。予算については、高価格帯の平均は約6,600円、低価格帯の平均金額は約3,100円となりました。商品選定では『贈り先の趣味・嗜好に合うか』を重視する人が1番多く、2番目が『地元福井の商品』となっています。

図表12① お歳暮は贈りますか



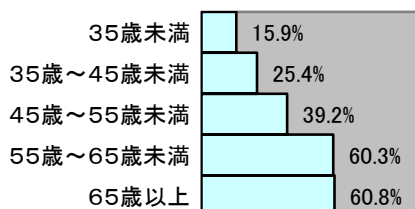
図表13 贈る予定の商品は

順位	贈る予定の商品 トップ10
1	海産物
2	加工肉(ハム・ソーセージ)
3	ビール・発泡酒
4	日本酒・地酒・焼酎
5	和洋菓子
6	りんご
7	うどん・そば・素麺など麺類
8	珈琲・紅茶
9	生鮮肉類
10	米

図表14 何を重視して贈りますか

順位	重視すること
1	贈り先の趣味・嗜好に合うか
2	地元福井の商品(ご当地商品)
3	金額ライン
4	安全・安心
5	季節感のある商品
6	日持ち
7	国産品(メイドインジャパン)
8	送料が無料
9	販売店の信頼性
10	お歳暮の定番商品

図表12② 年代別お歳暮を贈る割合



**10年後の暮らし、将来への不安は高齢世代で大きく（図表15～17）**

今から10年後の暮らしについて聞きました。「今よりも良くなると思いますか」という問いに対しては、全体で『悪くなる』が1番多く、52.7%となりました。ただし年代別に見ると差があり、高齢になるほど『悪くなる』と思う人は多くなります。

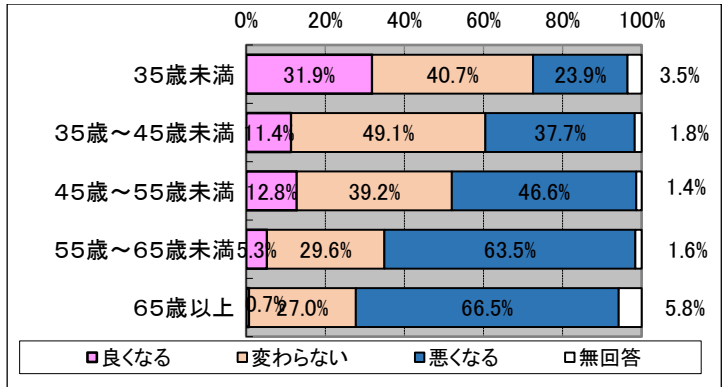
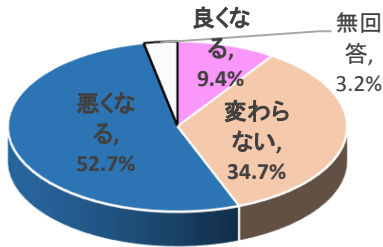
『悪くなる』理由としては全ての年代で経済的な不安が多く、55歳までの年代では、子どもの教育に関わる出費の増加を、55歳以上では、退職や年金減による収入の減少が挙げられています。また、高齢世代では健康面での不安、車の運転ができなくなることへの心配の記述も目立ちます。

「10年後も今の地域で暮らしたいと思いますか」の問いに対しては、82.1%の人が『そう思う』と回答しています。今住んでいる場所への親しみや地域のつながりといった理由の他に、『子どもの環境を変えたくない』（若い世代）、『今から新しい環境はなじめない』（高齢の年代）、『持家だから』（全ての年代）という理由が挙げられています。

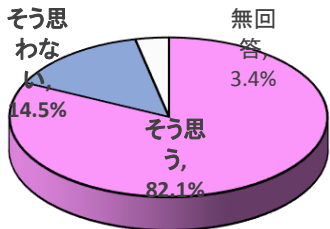
「地域の豊かさを維持していくために今後どのようなことが必要ですか」については、全体で『交通インフラの充実』『地域の助け合い』『健康』が上位3項目となりました。特に『交通インフラの充実』については全ての年代で3位以内に入っており、要望が高い事が分かります。

図表15① 10年後のあなたの暮らしは今よりも良くなると思いますか（年代別）

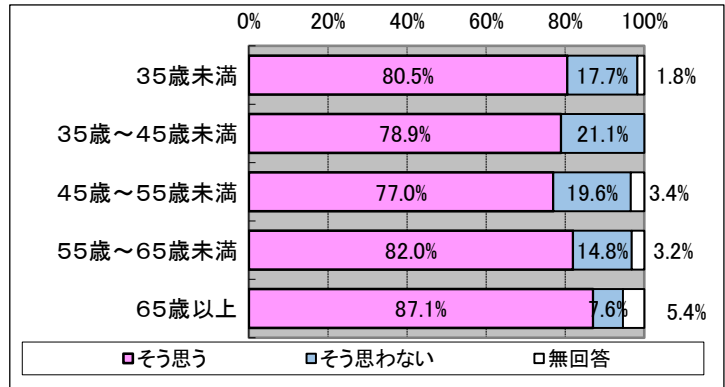
図表15① 10年後のあなたの暮らしは今よりも良くなると思いますか（全体）



図表16① 10年後も今の地域で暮らしたいと思いますか（全体）



図表16① 10年後も今の地域で暮らしたいと思いますか（年代別）



図表17 地域の豊かさを維持していくために、今後どのようなことが必要ですか（3つまで複数回答）（全体と年代別の比較）

全体		
順位	地域の豊かさのために必要なこと	
1	交通インフラの充実	39.0%
2	地域の助け合い	34.6%
3	健康	32.0%
4	買物しやすい環境	30.7%
5	医療	26.9%
6	収入	25.9%
7	介護	22.1%
8	子育て支援サービスの充実	17.2%
9	生活支援・家事援助	16.8%
10	友人	9.3%
11	認知症への理解	5.3%
12	IT技術のさらなる発達	2.5%
13	外国人労働者の拡充	0.4%
	その他	1.6%

35歳未満		
順位	地域の豊かさのために必要なこと	
1	子育て支援サービスの充実	61.1%
2	収入	34.5%
3	交通インフラの充実	27.4%
4	買物しやすい環境	23.9%
5	医療	23.0%
6	健康	19.5%
7	地域の助け合い	19.5%
8	生活支援・家事援助	18.6%
9	介護	15.0%
10	友人	7.1%
11	IT技術のさらなる発達	6.2%
12	認知症への理解	2.7%
13	外国人労働者の拡充	0.0%
	その他	2.7%

35歳～45歳未満		
順位	地域の豊かさのために必要なこと	
1	収入	42.1%
2	交通インフラの充実	34.2%
3	子育て支援サービスの充実	31.6%
4	買物しやすい環境	28.9%
5	地域の助け合い	28.1%
6	医療	21.9%
7	健康	19.3%
8	生活支援・家事援助	17.5%
9	介護	16.7%
10	友人	8.8%
11	IT技術のさらなる発達	4.4%
12	認知症への理解	3.5%
13	外国人労働者の拡充	0.0%
	その他	2.6%

45歳～55歳未満		
順位	地域の豊かさのために必要なこと	
1	交通インフラの充実	45.3%
2	収入	36.5%
3	買物しやすい環境	35.8%
4	医療	32.4%
5	健康	29.1%
6	地域の助け合い	29.1%
7	介護	20.9%
8	生活支援・家事援助	14.2%
9	子育て支援サービスの充実	9.5%
10	友人	6.1%
11	認知症への理解	5.4%
12	IT技術のさらなる発達	3.4%
13	外国人労働者の拡充	0.7%
	その他	4.1%

55歳～65歳未満		
順位	地域の豊かさのために必要なこと	
1	交通インフラの充実	38.6%
2	地域の助け合い	36.5%
3	健康	36.0%
4	買物しやすい環境	27.5%
5	医療	27.0%
6	介護	26.5%
7	収入	25.4%
8	生活支援・家事援助	15.9%
9	友人	12.7%
10	子育て支援サービスの充実	9.0%
11	認知症への理解	4.8%
12	IT技術のさらなる発達	1.1%
13	外国人労働者の拡充	0.0%
	その他	0.5%

65歳以上		
順位	地域の豊かさのために必要なこと	
1	交通インフラの充実	45.3%
2	地域の助け合い	42.4%
3	健康	41.7%
4	買物しやすい環境	33.8%
5	医療	27.0%
6	介護	25.5%
7	生活支援・家事援助	17.6%
8	収入	10.4%
9	友人	10.1%
10	認知症への理解	7.6%
11	子育て支援サービスの充実	3.6%
12	IT技術のさらなる発達	0.7%
13	外国人労働者の拡充	0.7%
	その他	40.0%

## 消費増税後の生活への影響は事前の予想よりも少なく（図表18～23）

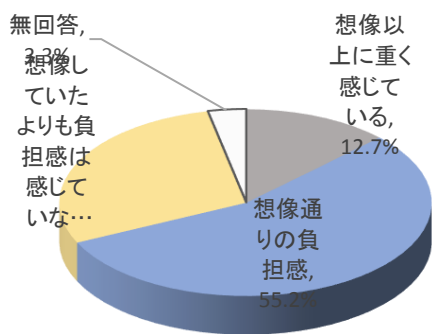
消費税引き上げ直後、生活への影響や意識について聞きました。増税の負担感については、『想像通りの負担感』が1番多く、『想像していたよりも負担感を感じていない』が『想像以上に重く感じている』を上回りました。『想像以上に重い』と回答した人の理由では、収入が増えないことや、物価の上昇が挙げられています。『想像よりも負担感を感じない』の理由としては、食品の軽減税率やポイント還元が多く挙げられているものの、「まだ大きい買物をしていないが」、と前書きする人も目立ち、時間の経過とともに負担の感じ方が変化する可能性もありそうです。増税後の生活水準は、増税の影響を受けると考えている人が多いですが、19年春の調査に比べると楽観的に考える人が増えています。

軽減税率については、増税実施後分りにくさを感じた人が多かったようで、『わかりにくいのであまり気にしないと思う』が増えています。また、日用品を軽減税率の対象にしてほしいという意見も多かった一方、『軽減税率が適用される品目をもっと増やすべきだ』がかなり少なくなりました。

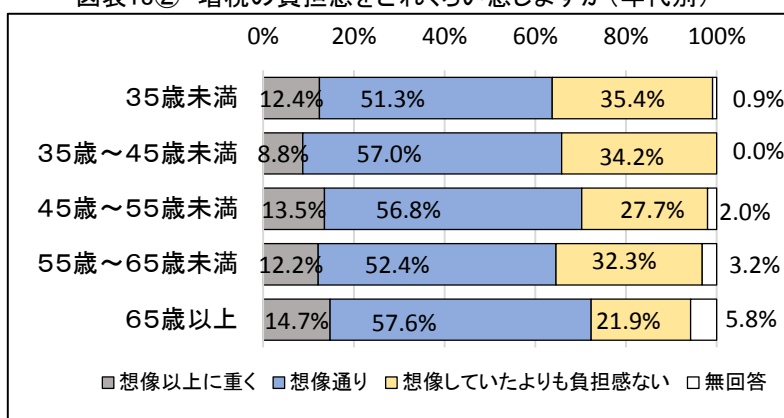
ポイント還元制度に伴うキャッシュレス決済については、『今までと変わらない（現金中心）』が全体では約半数ですが、年代で差があります。消費増税に関する意見の中でも、高齢の年代からは「キャッシュレスについては理解できない、ついていけない」という趣旨のものが多くあり、それが不公平感につながっていることが読み取れました。

今回も多くの意見が寄せられましたが、「税金の使い道を明らかにしてほしい」「社会福祉のために有益に使ってほしい」というものが目立ちました。

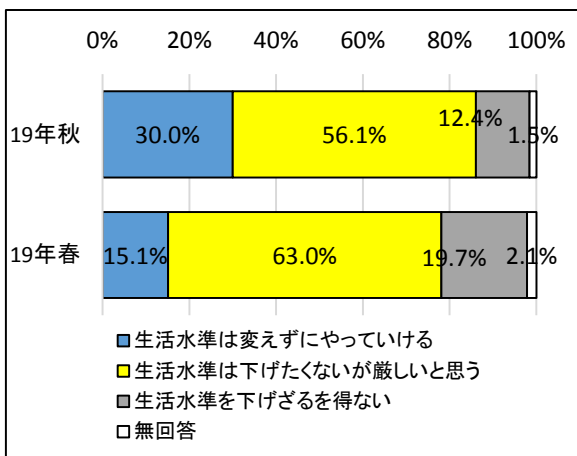
図表18① 増税の負担感をどれくらい感じますか



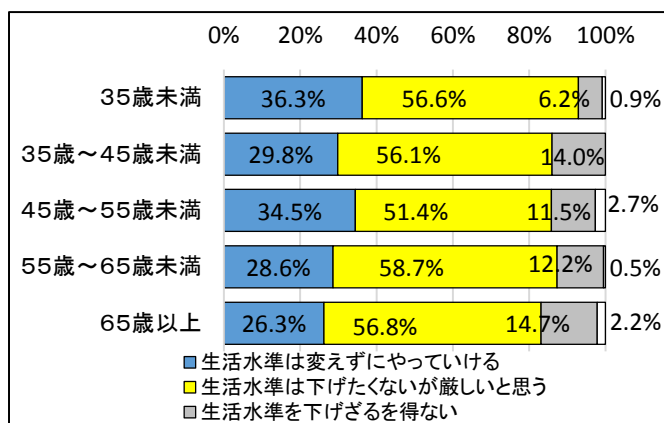
図表18② 増税の負担感をどれくらい感じますか（年代別）



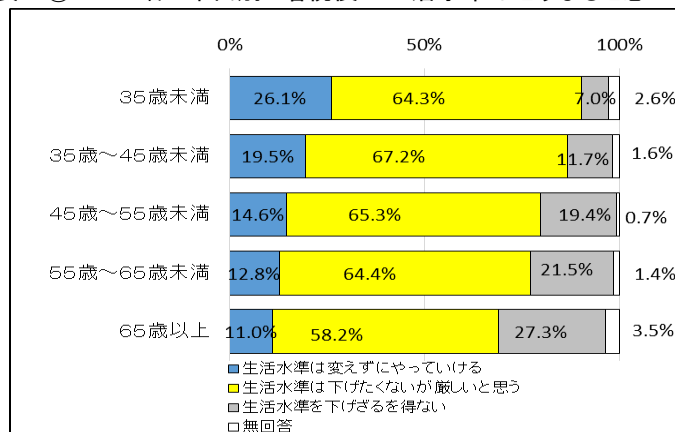
図表19① 増税後の生活水準はどうなるとお考えですか



図表19② 2019秋 年代別 増税後の生活水準はどうなるとお考えですか

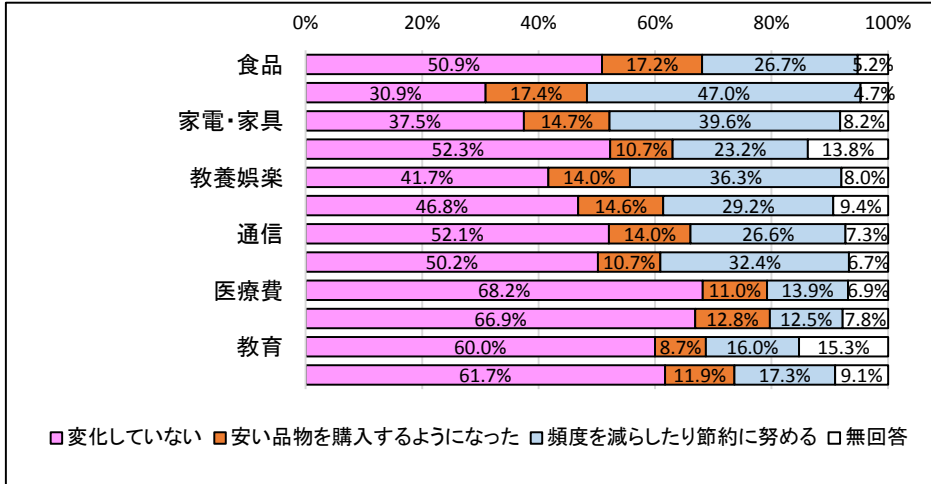


図表19③ 2019春 年代別 増税後の生活水準はどうなるとお考えですか

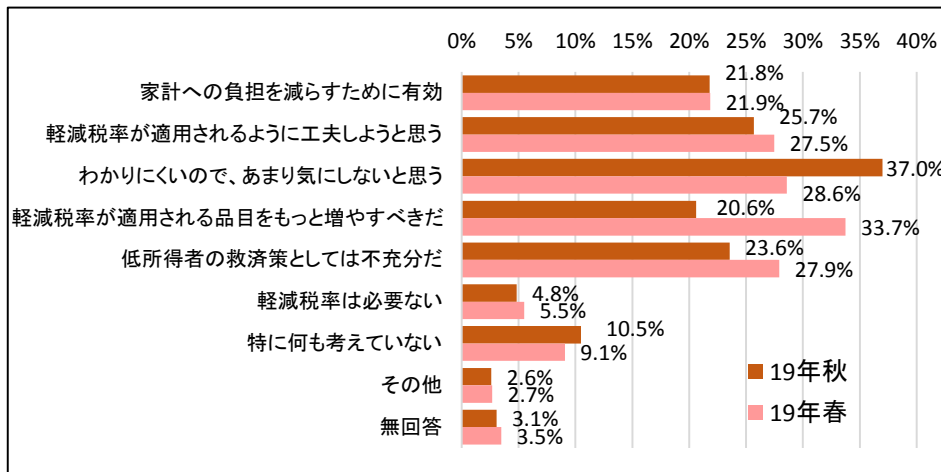




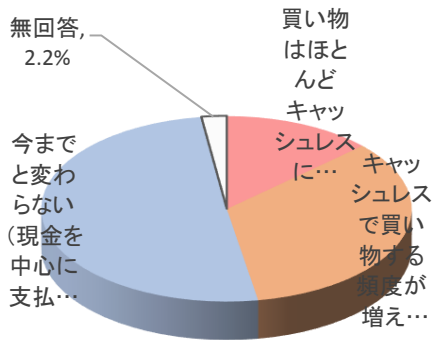
図表20 増税後、消費行動は変化しましたか



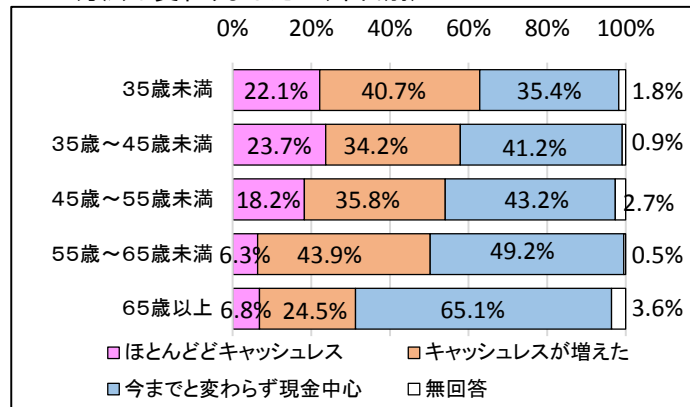
図表21 半年前との比較 軽減税率について、どのように考えていますか(複数回答)



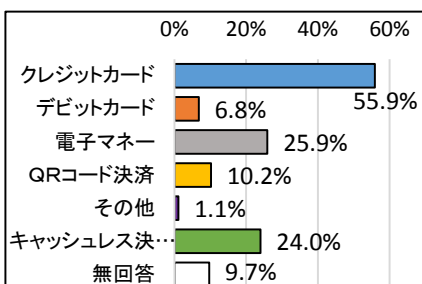
図表22① ポイント還元が始まって買い物の支払い方法は変わりましたか



図表22② ポイント還元が始まって買い物の支払い方法は変わりましたか(年代別)



図表23① キャッシュレス決済で使っているもの(複数回答)



図表23② キャッシュレス決済で使っているもの(年代別)(複数回答)

